

湯川溪谷アイスクライミング 2015/02/07

メンバー：落合（CL）、松村（SL）、荻原（ミソジ）、小濱、平川、勅使河原

天候：穏やかな晴天 8：45 登攀開始 16：30 終了

クラックでは我々の間でもお馴染みの湯川であるが、アイスで訪れるのは今回が初めてである。

朝はいつものように湯川犬に挨拶してから入山、たまに来る程度ではなかなか顔を覚えてくれない。。

林道からのアプローチは近く、手前の広場からでも 30 分程度なので無理して奥に進む必要もない。

冬は葉が落ちて林道からもクラックの岩場がよくみえた、今まで何度も来ているメンバーであるが対岸や付近の氷瀑の存在には全く気付かなかった。

Y字路を河原に降りると最初に初心者エリアがあるが氷結状態が甘く、午前中は白髪エリアを中心に登る。

カーテン状に連なる氷瀑はその時の発達具合によって状態が異なるため、ルート・ファインディングで登りやすいルートから取りつく。両岸一杯に広がる氷瀑群は見栄えがいいが、左岸はバーチカルで距離が長く難しい。

居合わせた方の話によると発達具合は昨年の半分程度？らしいが十分楽しめる、それならコンディションが良い年は嘸かし素晴らしいことになるだろう。



白髪エリア・右岸エリアをリードする'テレ屋さん'（上）と筆者（下）



マイクロワンソンをリードするこはむ君、初リードにして無事オンサイト。

名前の由来についてクダラナイ話で盛り上がったが、韓国最大の氷瀑・土旺城氷瀑（トワンソン・ポッポ）のマイクロ・バージョンといった所だろうか！？



修行の滝（左）と乱菊の氷柱（右）

修行の滝は氷結状態が甘く、取りついてみたがスクリュウの決まりが浅く敗退。

手前のスラブ滝から登り回り込んで TR で練習しようと思いロープを掛けたら、対岸の乱菊の氷柱で事故が発生。

ソロ・システムで登っていたクライマーが墜落、ロープが切れてしまい処置をしていた際に事故が発生したらしい、詳細は不明だがいずれにせよバックアップを施していない初歩的なミスと思われる。

足を骨折して動けなく事故発生から 2 時間 30 分程度でヘリで搬送された。（山岳救助は搬送場所はしかり、ピックアップの際は雪や葉が舞い爆風で目を開けてられない状態なので、救助の困難さを再確認した）

登攀での事故は懸垂下降やシステムの手順等初歩的なミスが多いだけに、我々も明日は我が身と感じ仲間内での知識の伝達や確認を怠らないよう強く再認識した次第です。

また事故を起こしてしまった・遭遇してしまった時の対処法も分かっているけど冷静・速やかに行えないことが多いので、万が一を想定し手順を頭の片隅に入れておく必要があるだろう。

負傷者の状態、場所の特定（緯度・経度）、救助要請、携帯の電波状況（圏外の場合は無線での通信）などなど。

やはり我々登山者はそれぞれで遭難対策カードを携帯すべきだと感じました、負傷者から個人情報を出すのは場合によって困難です。

ひとつの川の一部に過ぎない場所に、クラックの岩場から氷瀑群まで密に課題を提供してくれる湯川の魅力を再発見した。

ビギナーからエキスパートまで課題は豊富で、それぞれの目的にあった練習が出来るので今後もしばらくお世話になることでしょう。

(記録：落合)